

有機質資材の窒素無機化特性を考慮した有機栽培「ゆたかみどり」の秋肥重点施肥

有機栽培「ゆたかみどり」での有機質資材を用いた施肥は、秋3回、春2回の秋肥重点施肥が効果的

背景・目的

- ・有機栽培「ゆたかみどり」において、慣行栽培と同時期の施肥時期では、収量・品質が低い
- ・窒素無機化量を考慮した有機栽培「ゆたかみどり」に適した施肥体系の確立が必要

成果の内容

- ・有機栽培「ゆたかみどり」における有機質資材を用いた秋肥重点施肥で、慣行栽培と同等の収量・品質を確保(図1)
- ・低温期の施用に適した有機質資材例：菜種油粕、大豆粕、魚粕、肉骨粉等

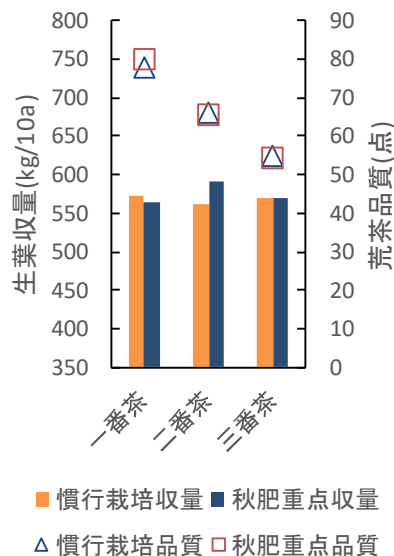
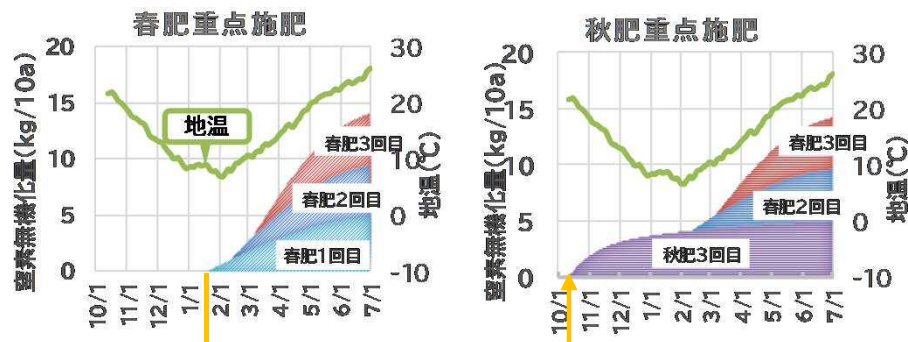


図1 生葉収量・荒茶品質



春肥1回目(1月下旬)の施肥を早めて、秋肥3回目として10月に、ぼかし肥料等有機質肥料を施肥

図2 施肥時期の異なるぼかし肥料の時期別窒素無機化量

表1 有機栽培「ゆたかみどり」に適した施肥例

施肥時期	秋肥① 8月上	秋肥② 8月下	秋肥③ 10月中	春肥② 2月中	春肥③ 3月上
肥料名 (N施肥量 kg/10a)	プロラー鶏ふん (7.5)	プロラー鶏ふん (7.5)	ぼかし肥料 (6.7)	ぼかし肥料 (6.7)	ぼかし肥料 (6.7)

期待される効果

有機栽培「ゆたかみどり」の施肥基準確立

- ・有機栽培「ゆたかみどり」の収量・品質確保
- ・有機茶の生産拡大
- ・輸出の拡大

○普及対象・範囲

- ・県内有機栽培茶生産者
- ・「ゆたかみどり」生産者

鹿児島県農業開発総合センター
茶業部栽培研究室